

「体験を通して、よりよい生き方を考える修学旅行」
—キャリア教育の一環として—

愛知県一宮市立尾西第三中学校

I はじめに 一宮市立尾西第三中学校の概要

1. 学校の沿革

昭和 30 年 4 月	尾西市立第三中学校開明分校として発足
平成 元年 4 月	1 年生宿泊学習開始（国立立山少年自然の家）
平成 6 年 4 月	2 年生宿泊学習開始（国立若狭少年自然の家）
平成 14 年 4 月	新学習指導要領実施（生きる力、確かな学力）
平成 17 年 4 月	市町合併により、一宮市立尾西第三中学校と改称
平成 18 年 8 月	「あいち・出会いと体験の道場」にて 2 年生職場体験開始
平成 24 年 4 月	新学習指導要領実施

2. 学校の現況

(1) 学校規模

平成 24 年度の本校生徒数は男子 274 名、女子 293 名の計 567 名で、学級数は 18 学級（特別支援学級 2 を含む）常勤教職員は 33 名である。本校へは小信中島小学校、開明小学校と三条小学校の一部地域の児童が入学してくる。

(2) 地域・学校・生徒の実態

<地域の実態>

校区は、一宮市の西（旧尾西市）、木曾川をはさんで岐阜県との県境に位置している。校区内に東海北陸自動車道尾西インターがあり、県道一宮大垣線、西尾張中央道が東西南北に走り、交通量の多い地域である。学校周辺は田園風景が広がり住宅が点在しているが、両小学校周辺は、住宅密集地であり、新たに建設された建売住宅や低層アパートや高層マンションも多い。

<学校の実態>

今年度の現職教育のテーマは、「確かな学力を身につけ、表現力を高めていく生徒の育成」であり、ここ数年「学習ルールやマナー」の定着に取り組むとともに、言語活動の充実を図ることで、生徒の学力の向上を目指している。

＜生徒の実態＞

本校の生徒は、素直でまじめな子が多い。言われたことは、やろうと努力するが、自らすすんで取り組もうとする気持ちが少ない。部活動においてもまじめに取り組むがなかなか成果がでていないのもそのためである。そこで、学校行事を通して、「やる気の三中」を目指し、自ら学ぶ生徒を目指している。特に秋に行われる「三中祭」では、1～3年生を縦割りのブロックに分け、応援団や応援旗などブロックのリーダーが中心となり生徒が主体となる活動を進めている。異学年交流の中から、自ら考える力、他と協力する力が少しずつ身についてきている。



3. 教育目標

(1) 本校の教育目標

「やる気の三中」の校風のもと、心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい生徒を育成する。

めざす生徒像

- ア 健康で明るい生徒 【健康】
・ 生命を大切にし、健康で思いやりのある生徒
- イ よく考え、自ら学ぶ生徒 【自主】
・ 目標実現に向けて、自ら学ぶ意欲のある生徒
- ウ 規則を守り、礼儀正しい生徒 【礼儀】
・ あいさつ・言葉遣いがよく、深く考えて行動できる生徒

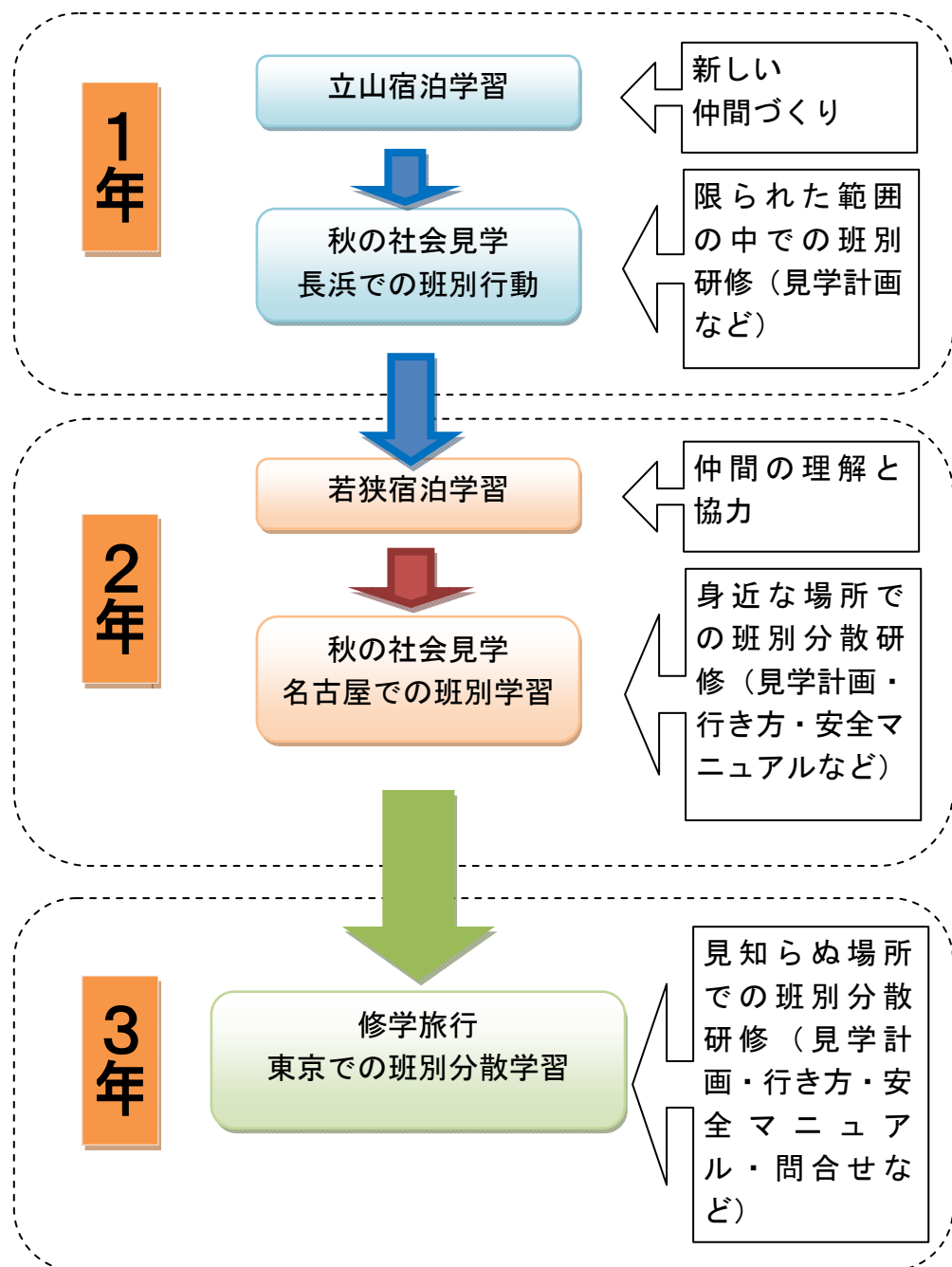
(2) 本年度の重点努力目標

- ア 指導法と授業展開の工夫と研究を行い，確かな学力の向上のための授業力・教師力を高める。
- イ 学習マナーや学習スキルの徹底，家庭学習の習慣化を図り，自ら学ぶ意欲の向上に努める。
- ウ 朝読書をすすめ，豊かな感性を育むとともに，図書館の活用の充実を図る。
- エ 道徳の時間の充実や体験活動を通して，豊かな情操を養い，自律心や相手を思いやる心の育成を図る。
- オ 避難訓練を充実させ，安全意識の高揚と事故の未然防止に対する態度と能力の育成を図る。
- カ 部活動の充実を図り，励まし合える人間関係づくりと規律のある中で進んで心身を鍛える生徒の育成を図る。
- キ コミュニティースクールの積極的な実践を通して，保護者・地域との連携や小中の連携を図り，信頼される学校づくりに努める。
- ク 各種たよりやホームページ等の充実を図ることで積極的に情報発信し，地域・保護者からの学校評価を教育活動に生かすよう努める。

Ⅱ 2010年度までの実践

1. 修学旅行の位置づけ

2010年度までの修学旅行は，総合的な学習の時間の中で，生徒自身が体験的活動を中心とした学習が進められるよう，1年生の4月の「立山宿泊学習」に始まり，「1年社会見学」「2年若狭宿泊学習」「2年社会見学」「3年修学旅行」と中学校3年間の校外学習を1つの線で結び最後の修学旅行で生徒が自ら考え，自ら行動する分散学習をめざして行ってきた。



2. 成果と課題

- 1年生から3年生まで生徒が主体的にかかわる内容を段階的に増やしていったことによって、見通しを持った計画ができ、生徒が自ら考え、自ら行動する研修を行うことができた。
- 体験内容を事後レポートにまとめ、発表することで、自分の考えをまとめ仲間の考えを知り、自分の考えを深めることができた。
- ▼ 安全面で、教師の目の届かない場所での安全管理が難しい。
- ▼ 自らに明確な課題意識を持たせられないときは、学習の成果が少ない。

Ⅲ 2011年度の実践

1. 修学旅行の位置づけ

(1) 東北の震災を受けて、修学旅行の変更までの経緯

本校は、2010年度まで東京・伊豆方面を目的地として2泊3日の日程で修学旅行を実施してきた。2010年度の実践を受けて、2011年度は、班別研修を見直し、東京・千葉でのキャリア教育との関連を考えたクラス別研修と漁村での体験活動を予定していた。しかし、東日本大震災のため、目的地や実施方法等を変更せざるを得なかった。

安全面を考慮し、目的地を東京・千葉方面から関西方面へと変更をした。また、実践方法も安全確保が難しい分散学習から団体行動を中心とした行に変更した。内容も、①震災のあった年だからこそできる学習。②2年時の職場体験をさらに3年時でも積み上げ「キャリア発達」に結び付ける。③集団としての自治意識を向上させる。こととした。

2. 修学旅行のねらい

- (1) 阪神淡路大震災の被災の様子や復興する過程を学習したり、震災から身を守る方法を学んだりする活動を通して、震災や防災についての知識を深めさせる。
- (2) 環境保全や製造業の最先端の技術を目にあたりにしたり、伝統工芸の技術に触れたりすることで、日本の物づくりの現場で働く人たちの仕事に対する思いや社会に対する思いを感じとらせる。
- (3) 集団生活を通し、協力・協調することの大切さを理解するとともに、望ましい社会性や公衆道徳を身につけさせる。

3. 計画立案にあたっての基本的な考え方

(1) 震災学習

・東日本大震災をまたとない震災教育の場と考え、10年前に被災した、関西地区（神戸・淡路）の震災関係施設や復興した街を見学することにより、被災地や被災した人たちへの思いや復興への思いを考えさせる。

(2) キャリア学習

・2年時に行った地元の職場・企業を中心とした「職場体験学習」を引き継ぎ、愛知県にはない関西地方の企業を中心に学習することにより、キャリアプランニング能力を高める。

4. 日程について

1日目

学校→→企業研修および昼食(各クラスで行動)→→なんばグランド花月→
7:15 9:30 13:00 14:30 17:30
海遊館および夕食 →→→ シェラトン都ホテル大阪(泊)
18:30 21:00 21:30

2日目

ホテル→→淡路島自然体験→→→北淡震災記念公園見学および昼食
8:30 10:00 11:00 11:30 13:00
→→姫路城(天空の白鷺)→→六甲山展望台→→神戸ディナークルーズ →
14:30 16:30 17:45 18:15 19:00 21:10
ポートピアホテル(泊)
21:30

3日目

ホテル→→人と防災未来センター→→神戸ポートタワー(昼食)→→→
8:30 9:00 11:00 11:30 13:00
南京町班別研修 →→→ 学校
13:15 14:30 17:30

5. ねらいを実現させるための具体的な取組

(1) キャリア学習

① 企業研修

学級別研修では、4つの企業で工場見学や体験活動を行った。それぞれの企業での工場の様子や企業努力、企業理念などを学習し、2年生の時の職場体験学習では体験できなかった大企業の様子を知ることができた。



研修先企業	見学時間	行程
おたべ本店	9:30~11:00	本校⇒八日市⇒草津PA ⇒京都南⇒京都市内 ⇒おたべ <2時間>
ヤクルト京都工場	10:00~11:30	本校⇒八日市⇒草津PA ⇒小倉⇒宇治西⇒ヤクルト <1時間40分>
コカ・コーラ 京都工場	10:00~11:30	本校⇒八日市⇒草津PA ⇒小倉⇒コカ・コーラ <1時間35分>
京セラ八日市 工場	9:00~11:30	本校⇒八日市⇒京セラ <1時間>

②淡路自然体験

淡路島自然体験では、淡路島特有の「お香づくり」、自然体験としての「搾乳とバター作り」、淡路島名産の「かまぼこづくり」の3つの体験を行った。

◎薫寿堂



淡路島は、日本のかおりのふるさと。『日本書紀』によると推古天皇3年（595年）の夏、沈香木が淡路島に漂着し、そこから日本のお香の歴史が始まったといわれている。

お香の製造工程の見学とともに、お香づくりを体験した。

◎淡路島牧場



実際に乳牛に触れ、自ら乳搾りを体験した。初めて牛に触れた生徒の中には、怖がる生徒もいた。その後、バター手作り体験をしました。普段食べているバターがどのように作られるのか初めて知り、できたバターをなめた時は、感動の声があがった。

◎鯛おどる館



淡路島でとれた魚から作るかまぼこづくりを体験した。魚のすり身をすり、形を作っていく作業は、思ったより難しく完成した時の喜びはひとしおであった。

(2) 震災学習

震災学習として、震災の様子を学習するために「人と防災未来センター」と「北淡震災記念公園」の2か所の見学を行った。また、修学旅行の最後に南京町を訪れ、復興した神戸の街を体感させた。

① 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

人と防災未来センターでは、震破壊のすさまじさを迫力ある大型映像を体感したり、リアルに再現された震災直後のまち並みを通ったり、復興に至るまでドラマを見たりして、震災の中を生き抜いた関西の人々の苦しみや悲しみを感じ取ることができた。



② 北淡震災記念公園

阪神淡路大震災の震源地である野島断層。それをありのままに保存し、いろいろな角度から断層と地震について分かりやすく解説してあるのが北淡震災記念公園である。本物の断層をじかに見ること、震災で壊れた建物をじかに見することは、生徒にとって初めてのことであり、地震の恐ろしさを改めて知ることができた見学地であった。



③ 南京町班別研修

修学旅行の最後に行った研修である。震災の怖さ・すさまじさを学習した後で、震災から復興した神戸の街を散策することで、復興への思いを感じることや、様々な人と触れ合い・自ら計画した内容を実行できる自己管理能力の育成を目指した。



6. 成果と課題

- 震災直後ということもあり、震災学習という面では、生徒の心に響くものがあつた。
- 企業研修や体験活動後に、レポートを作成し、お互いの体験を話し合うことにより、お互いの良さを見つけたり、絆を深めたりすることができた。
- ◆ 全行程バス移動ということもあり、バス酔いなど体調面での不安が残つた。
- ◆ 企業研修や体験活動では、準備期間が短かつたため、数が少なかつた。職場体験ではいけなかつたような企業や政治や経済に関わる仕事、1・2年生の社会見学で体験できなかつた体験活動を準備することも検討していきたい。

Ⅲ 2012年度の実践

1. 修学旅行の位置づけ

(1) 修学旅行をはじめとする行事の見直し

「あいちの教育アクションプランⅡ」の重点目標 発達段階に応じたキャリア教育の充実を受けて、本校では、今まで取り組んできた行事等をキャリア教育の観点から見直した。(表1)

キャリア教育で身につけさせたい力と行事等との関連									
	学校行事				その他	身につけたい力			
	旅行・集団宿泊的	文化的	勤労・生産・奉仕的	儀式的		人間関係・社会形成能力	自己管理・自己理解能力	課題対応能力	キャリアング能力
1年	立山宿泊学習					◎	○		
			資源再生回収						○
					職業調べ				◎
		体育祭				○	○	○	
	社会見学	文化祭				○	◎	○	○
				社会人の話を聞く会					
2年	若狭宿泊学習					◎			
			職場体験学習						◎
		体育祭				○	○	○	
	社会見学	文化祭					◎		○
					高校調べ	○	○	○	
			立志式			◎		○	
3年	修学旅行					○	○		○
		体育祭				○	○	○	
					体験入学				◎
	社会見学	文化祭				○	○	○	○

(2) 修学旅行までの各学年での取り組みとねらい

1年時

4月 立山宿泊学習

- ① 共に生活する中で、お互いをよく理解し、協力し合い、高め合う関係を築く。
- ② 自分自身の役割を自覚し、進んで、責任を持って行動する。また、自分のよいところを積極的に集団の中に生かす。
- ③ 自然の雄大さに触れ、人間性を豊かにし、大自然の中で心身を鍛える。



中学校生活が始まって2週間での宿泊学習で、仲間作りやあいさつなど中学校生活の基本的な生活習慣を身につけさせるための行事である。発志式で中学生としての決意表明を行い、焼き杉の板に一年間の目標を書き、一年間教室に掲示した。

10月 社会見学（長浜班別学習）

- ① グループごとに計画を立て、安全に活動していくことを通して、自主性や協調性を身につける。
- ② 公共施設や文化財などを見学し、自ら進んで社会見学学習をすすめていこうとする態度や実践力を身につける。
- ③ 一般社会の中で、公衆道徳や交通規則を意識し、活動していく力を身につける。



班ごとに長浜の文化や公共施設について調べ、各班でテーマを持って行動計画を立て、見学地をまわり、レポートにまとめ、クラス内での発表会を行った。

2年時

10月 若狭宿泊学習（土砂崩れによる延期 本来は5月に実施予定）

- ① 大自然の中で体験学習を行うことによって、学校生活の中で味わえない自然の雄大さや自然のすばらしさを味わう。
- ② 自分の役割を自覚し、ルールを守り、自主的かつ責任を持って行動する。自分のよさを集団の中で積極的に発揮する。
- ③ 集団生活をする中で、友達のよさを見つけ、協力し、励まし、高め合う関係を築く。



5月に実施予定であったが、土砂崩れによる通行止めのため延期となり、10月に実施した。選択活動では、学級の枠を超えて目的を同じくした仲間と協力して活動する姿が見られた。常に自分たちで時間を意識し、スムーズに活動することができた。

8月 職場体験学習

- ① 将来の生き方を考え、夢と希望を持ち、その実現に向けて努力しようとする心を育てる。
- ② 職業・勤労に関する実際の体験を通して、働くことの厳しさや楽しさを知り、職業・勤労についての関心を高める。
- ③ 身近な地域で働いている人の姿や働くことに対する考え方に触れ、職業や勤労の意義や目的を考える。



事前にアンケートを取り、できるだけ希望に沿った職種での体験を行った。2日間から3日間の活動は、どの生徒もあいさつや活動などしっかりした態度で臨むことができた。職場のたいへんさを知るとともに、職場の方々の仕事に対する意識の高さを実感することができた。レポートにまとめ、学級内での発表会を行った。

2. 修学旅行のねらい

- (1) 環境や製造業の最先端の技術を目の当たりにしたり、漁村での生活に触れたりすることで、それぞれ異なる環境で働く人たちの仕事に対する思いや社会に対する思いを感じ取らせる。
- (2) 日常とは異なる環境である海辺での避難訓練を通して、地震や津波から身を守る方法を考えさせ、震災についての理解を深めさせる。
- (3) 集団生活を通し、協力・協調することの大切さを理解させるとともに、望ましい社会性や公衆道徳を身につけさせる。

スローガン

『 深めよう、絆！ 見て学ぼう、匠の技！～友との思い出は心の中に～ 』

心構え

- (1) 「集団の一員である」という意識を持って行動する。
- (2) 学級・班が楽しく過ごせるように一人一人が気を配る。
- (3) よい思い出がつくれるように、お互い協力し、助け合う。

3. 計画立案にあたっての基本的な考え方

(1) 漁村体験

民宿では、男女別クラス毎に寝起きを共にし、マナーを守り互いに協力して生活することを目指した。さらに民宿の方や仲間との人間関係を深めるためにふれあいタイムを計画した。

また、身近では体験できない漁村での生活に触れさせ、漁業や海辺の民宿の仕事について考えさせるため、漁船体験学習や民宿でのアジの開き体験学習を取り入れた。

東日本大震災後の修学旅行であるため、海辺での活動については安全の確保を第一に考え、到着後すぐに避難訓練が実施できるように計画した。

(2) クラス別研修

日本の製造業の最先端の技術に触れ、自己の将来に向けての意欲つけとともに学ぶことと働くこととの関連について理解を深めさせることができると考え、クラス別研修において各企業・施設の訪問を計画した。

研修場所一覧

国立科学博物館（上野）・そなエリア東京（台場）・花王ミュージアム（墨田区）
パナソニックセンター東京（台場）・ソニーエクスプローラサイエンス（台場）

4. 日程について

※→→→

バス

===

電車

≫≫≫

徒歩

① 6月3日（日）

ひかり 508号

学校 →→→ 岐阜羽島駅 === 東京駅 →→→ 国会議事堂見学・昼食
 集合 6:30 7:00 7:45 8:21 10:40 11:00 11:20 13:30
 →→→ 岩井着・避難訓練 ≫≫≫ 各民宿にて（泊） 民宿でのふれあいタイム
 15:20 17:00 17:30

〒299-2223 千葉県南房総市高崎

すなだ	tel	0470(57)2378	かわな館	tel	0470(57)2365
しんどう	tel	0470(57)3951	孫エム	tel	0470(57)2159
かごや	tel	0470(57)2405	よいち荘	tel	0470(57)2656
又左衛門	tel	0470(57)4157	みなみ荘	tel	0470(57)4173
孝楽	tel	0470(57)2689	さとみ館	tel	0470(57)2609
カセトビ	チ	イ	かわな	tel	0470(57)2606

② 6月4日（月）

各民宿 ≫≫≫ 体験活動・昼食 →→→ 東京デイズ ニーランド および夕食
 7:40 8:00 12:45 14:50 20:20

=== 村財一坊東京ベイ（泊）
 20:45

〒279-8585 千葉県浦安市舞浜 1-8 tel 078(302)1111

③ 6月5日（火）

ひかり 519号

村財一坊東京ベイ →→→ 学級別見学・昼食 →→→ 東京駅 === 岐阜羽島駅
 8:00 9:00 14:00 14:40 15:33 17:32 18:00
 →→→ 学校
 18:45 解散 19:15

服装

3日間とも夏の制服で過ごす(宿・ホテルの部屋および体験活動以外は制服)。履物は履きなれた通学用運動靴とする。

心得

- ・ 尾西第三中学校の最高学年としての自覚を持って行動すること。
- ・ 今回の修学旅行は学習の場であることを常に意識すること。
- ・ 集団の一員として、自覚ある行動に心がけること。
- ・ 5分前行動の意識を持って、行動すること。
- ・ 交通安全や公衆道徳を守り、礼儀正しい言動や行動に心がけること。
- ・ 携帯電話や菓子などの不要物を持っていきたり、普段の学校で認められていない身だしなみをしたりすることがないようにすること。

5. ねらいを実現させるための具体的な取組

- (1) 働く人たちの仕事に対する思いや社会に対する思いを感じ取らせるための手立て
職業の多様性を理解させるために、事前に修学旅行で出会う職業について考えさせ、図書館やインターネット等で調べさせた。

修学旅行事前学習会

1 修学旅行の目標

- (1) 環境や製造業の最先端の技術を目の当たりにしたり、漁村での生活に触れたりすることで、それぞれ異なる環境で働く人たちの仕事に対する思いや社会に対する思いを感じ取る。
- (2) 日常とは異なる海辺での避難訓練を通して、津波から身を守る方法を考えさせ、震災についての理解を深める。
- (3) 集団生活を通し、協力・協調することの大切さを理解させるとともに、望ましい社会性や公衆道徳を身につける。

『働く人たちの仕事に対する思いや仕事の内容を学ぶ』

2 修学旅行での出会う様々な職業の人を考えてみよう。

<1日目>

- 民宿
- 移動の乗り物
- 国会議事堂見学

<2日目>

- 漁船体験
- ディズニーランド
- ホテルオークラ

<3日目>

- 学級別見学地

働く姿をよく観察し、また、積極的に話をし、思いや仕事内容について理解を深めよう。

※民宿で行う予定のこと

- ①宿泊メンバーや三中に関する紹介
- ②夕食の準備・片づけ、お風呂・トイレ・部屋の清掃など、お手伝いできることを計画

修学旅行に関わる人々の職業について意識づけ、個々の目標を立てさせた。2年時に行った職場体験学習で得た職業観・勤労観をさらに育むために、東京ならではの研修場所(大企業・技術の最先端を見せる施設等)を選び、さらに居住地にはない海辺の町

の体験に取り組んだ。

(2) 震災についての理解を深めさせるための手立て

東日本大震災についての報道番組から、どのような危険があるのか、最善の対処法について考えさせた。さらに千葉県の民宿の地図からどのような条件の地区であるか、過去にどのような災害を経験しているかを知らせ、避難の仕方について各クラスで話し合った。

クラス別研修では、そなエリア東京を訪問し、災害時の対応のよりよい仕方を学ぶとともに、首都圏の防災についての理解を深めさせた。

(3) 望ましい社会性や公衆道徳を身につけさせるための手立て

マナーについての学習時間を取り、実際に簡単なマナー問題を解かせた後、修学旅行での民宿とホテルのちがいや企業研修でのあいさつの仕方、駅やホーム等での移動時の方法など各クラスで考えさせた。

校内での現状や今までの自分の生活を振り返らせ、問題点をあげ、修学旅行で何に気をつけるべきか個々に目標を立てさせた。

生徒がまとめたマナーについて

マナーは日常のなかで実践されてこそ初めて身につくもの。マナーはよりよい人間関係を築き、自分の人生を豊かにするものである。「人に喜ばれることをする」「人が嫌がることはしない」といった当たり前の積み重ねこそマナーの本質。

たとえ心の中で相手を尊重していても、ダラダラした態度ではその心は伝わらない。身体のキレやメリハリは相手への礼儀を表すためには重要な要素である。反復訓練なくして、美しく整えることはできない。

修学旅行は、今までの生活が問われる場となる。日頃から、意識することが大切である。

民宿の方に喜んでもらうためにどのような態度で生活するとよいかを学級で話合わせた。

お世話になる民宿の方々へ事前にプロフィールカードを送り、リーダー会が中心となって、ふれあいタイムでは民宿の方に楽しんでもらう企画を考えさせた。

6. 当日の取り組みと事後活動

(1) 民宿での活動

① 避難訓練

各民宿に移動後すぐに民宿の方の誘導で一次避難場所である岩井神社（海拔 10m）を經由して、二次避難場所の寿薬寺（海拔 48m）まで約 40 分かけて避難訓練を実施した。

寿薬寺からは、町の様子が一望でき、避難訓練の途中に過去に津波が到達したと言われていた石碑をみる事ができた。

初めての訪れた土地での避難の心もとなさ、かなり急な



坂道もあり，海辺での避難のたいへんさを実感することができた。

岩井民宿学級別分宿及び避難訓練計画

- ①しんどう(本部:学校長・箕・中村・横山)②サンセットビーチインかわな(4組男:平松・岩田・瀧藤)
 ③孝楽(1組男) ④かごや(5組女) ⑤よいち荘(4組女:梶浦・角當) ⑥孫エム(3組女)
 ⑦里見館(2組女) ⑧又左衛門(1組女) ⑨みなみ荘(3組男:原・柴田)
 ⑩すなだ(5組男:倉橋・荻原) ⑪かわな館(2組男) ※()内は分宿生徒と宿泊職員



荻原⑩→⑪→① 角當・梶浦④→⑤→⑥→⑦→①
 原・柴田⑨→① 平松②→⑩→⑪→① 岩田③→⑨→①
 瀧藤②→④→⑤→⑧→① 学校長②→④→⑤→⑥→⑦→①
 横山① 中村…岩井神社 箕…寿薬寺 倉橋⑩→岩井神社
 倉橋以外は①本部で報告後岩井神社→寿薬寺で点呼
 倉橋は車いすの生徒と⑩～岩井神社へ向かう。
 避難訓練後，→で各民宿へ

生徒の感想

海拔 10mまで逃げるだけでもかなりきつと思った。東北のような津波が来たら逃げるのでいいのか不安だった。昔この町でも津波で流されたと聞いて驚いた。民宿の人が一緒でなかったらどこに逃げたらいいのかわからなかったと思う。避難訓練をやったよかった。

② ふれあいタイム

岩井民宿は関東地方の林間学校として長く利用されていたこともあり，大広間や体育施設などもあるため，女子はダンスやピアノの弾き語り，男子は漫才や手品などクラスで工夫したパフォーマンスを行った。また，民宿の方から民宿経営での苦労話や農作業の楽しみなどを話していただき，クイズ大会やクラフト，海ほたるの鑑賞会などそれぞれの民宿で楽しい時間を過ごすことができた。

民宿で働く人々に触れ，この時間が最も楽しく有意義な時間であったと答える生徒が多かった。



生徒の感想

私たちのクラスは班ごとに出し物を考えました。私たちはピアノの曲に合わせて手品をしました。練習不足でちょっと時間はかかったけれど、クラスのみんなや民宿のおばさんたちに楽しんでもらえて、うれしかったです。ほかの班のダンスや歌もとても上手であつという間に時間が過ぎてしまいました。

生徒の感想

僕は初めて友達と漫才をしました。友達とどうしたらうけるかいろいろ考えました。考えている間がとても楽しかった。

民宿の方から仕事のやりがいの話を聞きました。民宿の仕事の内容はいろいろあつて、想像以上にたいへんだということや人に喜んでもらうことが楽しいことだと教えてもらいました。

③ アジの開き体験

2日目の朝、民宿ごとにアジの開き体験を行った。ほとんどの生徒が初めての体験で、真剣な面持ちで民宿の方から説明を受けた。

一人3匹のアジを開き、塩分濃度の説明などを聞いた。生ごみの処理や道具の片づけも全員ですばやく取り組み、どの民宿も予定時刻よりも早くできた。

生徒の感想

魚を開くなんて初めてだし、最初は気持ち悪くてできないと思っていました。民宿のおじさんがすごく上手に開いていてかっこよく見えました。やってみると意外とうまくできて、友達や先生にほめられました。苦手な友達も手伝ってあげました。意外に才能あるかもしれないと思いました。



④ 漁船体験活動



前半と後半に分かれて漁船体験を行った。職員が乗船しない船には、民宿の方が乗り11隻で出航した。船酔いが心配された生徒もほとんどが乗船した。

生徒の感想

潮風がすごく気持ちよくて、時間を忘れさせてくれるような体験でした。船長さんはずっと立ち仕事でしかも運転がすごくうまくてびっくりしました。

生徒の感想

毎日こんな波にもまれながら仕事をしているのかと思うとたいへんだと思いました。時には命の危険もある仕事だと知りました。

民宿の生活は基本的に職員が常時ついているわけではないので、自分たちで判断し、行動しなければならない。生徒は立山宿泊学習、若狭宿泊学習と宿泊学習を積み重ねる中で時間を守って行動するなどの自己管理能力が確実に育成されてきた。その集大成として修学旅行では、しおりで確認をしながら、自分たちで率先して準備や片づけを行い、すべての活動がスムーズに時間的に余裕を持って取り組むことができた。

この修学旅行は今までの宿泊学習と異なり、民宿の方々の温かなふれあいの機会を得られたことが生徒の心の成長につながったと思われる。生徒の感想にも「家族の中にいるような安心感があった。」「心からもてなしてもらっていると感じた。」「食事がおいしくて、楽しく食事ができた。」などの感想が多かった。また、定時に各民宿から本部へ送られてくる報告 FAX で生徒の状況が把握で安全管理の面でもよかった。

(2) クラス別研修

1組 国立科学博物館



名古屋市科学館や電気の科学館などには何度も言ったことがあるけれど、さすが国立となるとスケールが違うと思いました。動物のはく製や骨の標本などもたくさんあり、あっという間に時間が過ぎました。シアター360「マントルと地球の変動」は地球の内部にいるようなリアルさで感動しました。シアター360を考えた人に会ってみたいと思いました。また、展示物をつくったり、いろんな原理をわかりやすく説明したりする仕事もあるんだと思いました。

2組 そなエリア東京



体験ツアーはとてもリアルに再現されていて、本当に大きな地震があったみたいだった。「東京マグニチュード8.0」は現実感があって、自分も「もし大きな地震が本当に起きたら…」と真剣に考えてしまった。愛知県も東南海大地震、東海大地震の心配があるので、改めて地震のことを考えなければならぬとおもった。防災について東京都はしっかり考えているのだと思った。

3組 花王ミュージアム



全国に花王の工場があり、東京工場は主に化粧品を製造していました。ここでは実際に働いている人を見ることができました。工場内では磁力で動く機械がありました。最終チェックは集中力が長く続くということで、女性限定だそうです。肌の診断や髪の毛の診断を最新機器で行ってもらい、科学の進歩と製品がつながっているのだと実感しました。

4組 パナソニックセンター



ここパナソニックセンターは、パナソニックの総合情報発信拠点で「環境革新企業」を目指し、地球発信で、暮らしやビジネスにイノベーションを起こすというビジョンで具体的に製品を示しているそうです。

理科や数学の原理を実験やゲームで楽しく学べるように工夫されていて、驚きました。そして、理科や数学がもととなって、思ってもみないような製品がつくられているのだと感心しました。

見学している間、案内してくださった方が、親しく話しかけてくださったり、わかりやすく説明してくださいました。常に笑顔で接して下さり、楽しく見学することができました。私も見習いたいと思いました。

5組 ソニーエクスプローラサイエンス



最先端の技術を使ったものがたくさんありました。機械で人の顔や動きを判断したり笑顔に点数をつけるのには驚きました。他にも目の残像を利用した光の実験や携帯電話がどこでも使える理由など身近なことで意外とわからないこともわかりました。将来機械系の仕事をしたいと思っていましたが、体験を通してよりそう思いました。

(3) レポートの作成について

修学旅行後2時間でレポートの作成を行い、教室の廊下に掲示した。

レポートの書き方

- 1 課題設定の理由
- 2 クラス別研修について
 - (1) 研修場所
 - (2) 事前に調べたこと
 - (3) 研修内容
- 3 国会議事堂
- 4 岩井民宿・自然体験学習
- 5 ディズニーランド・ホテルオークラ東京ベイ
- 6 修学旅行を終えて
 - (1) 自分の立てた課題の達成度
A — B — C
 - (2) 修学旅行をとおして自分が成長したこと。
できるようになったこと。または今後改善したいこと。
 - (3) これから自分の夢を達成するために、中学校生活最後の1年を飾るために、中学校生活で大切にしていきたいこと。がんばっていききたいこと。

社会人としての礼儀を学ぶ

1. 課題設定の理由

普段慣れていた中学校や家での行動を見直し、これから社会人としての礼儀を身につけるのに、良い機会だと思ったから。

2. 研修について

① 研修場所

パナソニックセンター

② 事前に言われたこと

リスレビア

2F ... クエストギャラリー

・理髪女の原理モデルを展示

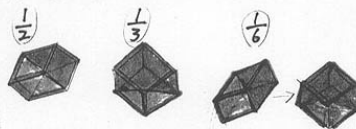
3F ... ディスカバリーホール

・理髪女の不思議発見の展示

※ニンテンドーゲームフロントもあるらしい。

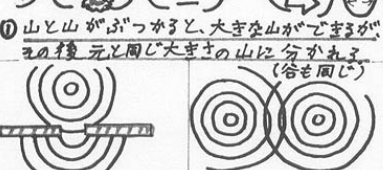
③ 研修内容

(1) 昔の人は1升だけ油をどのさ、 $\frac{1}{2}$ の量を量っていたこと。



(2) 波について

山と山がぶつかったら、大きな山ができて、その横元と同じ大きさの山に分かれる。(谷も同じ)



④ 波が壁の隙間を通り抜けると、その波が広がる。凹状の波が壁をすり抜ける。

⑤ 波と波がぶつかったら、お互いの波を弱めあったり強めたりなくしてしまう。

3. 国会議事堂見学

テレビや写真で見ると威風凛々としていてさすが国会だと感動した。ドアのぶつかさカーペット、柱の本数などには美しさが感じられ、ここを作った建築家や職人さん達に尊敬の意をだいた。糸田かなとこまでこたあっている匠の技にあこがれた。

4. 岩井民宿・自然体験学習

民宿の御家族の親切さに心を打たれた。自分たちのために食事を作ってくれたり、海ホテルを見せて理髪女について語ってくれたりして、ありがたいと思った。このようにあなたがいきなり接客をしてみたことはとても良かったと思った。

5. ディズニーランド・ホテルオークラ東京ベイ

ディズニーランドでは、従業員は皆笑顔でとても安心感があった。また、よごれたところはさっと掃除してきれいに掃除機がけがたいと思えた。ホテルでは、部屋に革化を忘れたときにホテルマンの人が親切に案内してくれて、とても感動しかこしいと思った。

6. 修学旅行を終えて

① 自分の立てた課題の達成度

1-2-3-4-5

② 修学旅行をとおして様々なところで働く人々を見て、とても礼儀正しいことに気がついた。これがいさづがしかりしている人ばかりであることに気がついた。あいつがしかりできると自分たちはどれだけの親切感を与えられるかが分かった。

③ これからの自分の夢の達成について

あいつをしっかりとすることをがんばりたい。あたり前のようなことだが今回の修学旅行で、あいつの大切さに気づき、自分のあいつの仕方を直そうと思った。あたり前のあいつが社会ではとても重用であることを知った。

どの生徒も『働く人たちの仕事に対する思いや仕事の内容を学ぶ』というテーマから個々に課題を設定し、修学旅行を通じて感じたことや学んだことをしっかりとレポートにまとめた。多くの生徒が民宿の方々の仕事ぶりについて書いていたが、添乗員やホテルマン、バスガイド、ディズニーランドのキャストなどにも着目し、レポートをまとめた生徒もあった。2年生で行った職場体験での経験が修学旅行に携わる多くの職業人への視点として生かされ、レポートとしてまとめられたと考える。

(4) 民宿へのお礼の色紙作り

民宿で他校の色紙などを見て、生徒から各民宿へお礼の色紙を送りたいとの声が出てきた。そこで、色紙に写真を貼ったり、民宿の方の似顔絵を書くなど工夫して、お礼の言葉を書き添えて送った。普段は文章表現が苦手な生徒も心からの感謝の言葉を書いており、民宿の方とのふれあいの強さを感じた。

7. おわりに

昨年度関西地区の修学旅行となったため、今回初めて千葉県岩井民宿にお世話になった。民宿の方とのふれあいが生徒の成長に大きく影響したことは間違いなく、修学旅行で関わった方々に感謝したい。

生徒達は自己の役割を自覚し、互いに協力しながら修学旅行に取り組んだ。このことは3年間の学校生活や行事の中で培ったことが、この修学旅行に大いに生かされたと感じた。この経験を生かして、今後も生徒の社会的・職業的自立を目指して、家庭、地域と連携して指導を継続したい。